第67期 株主通信
上半期報告書

平成22年4月1日 ～ 平成22年9月30日

ニチレキ株式会社

NICHIREKI

証券コード：5011

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より当社グループには格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第67期上半期(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)の業績につきまして、その概要をご報告いたします。

当上半期におけるわが国経済は、新興国の経済成長や政府による景気対策等の効果により回復傾向が見られるものの、厳しい雇用環境やデフレ状況は未だ続いており、また長期化する円高の影響など、先行きの不透明感は払拭されずに推移しました。

当社グループを取り巻く環境につきましては、依然として公共事業は低調に推移し、これに伴う受注競争の激化や原材料価格の上昇など、きわめて厳しい状況となりました。

当社グループはこのような環境の中で、中期経営計画『チャレンジ 2012』の初年度として、「いかなる外部環境の変化においても安定した収益を確保できる企業体質への変革」「ニチレキブランドの強化による優位性の確立」および「機動的かつ効率的なグループ経営体制のさらなる強化」を基本方針とし、業務活動を進めてまいりました。

しかしながら当上半期の業績につきましては、「連結財務ハイライト」に示しますとおり、増収減益の結果となりました。

事業別で見ますと、アスファルト応用加工製品事業につきましては、主原材料などの価格上昇に対し、製造・物流の効率化や適正価格の維持に注力しましたが、売上高は7,650百万円(前年同期比7.8%増)であったものの、営業利益は919百万円(前年同期比38.8%減)となりました。道路舗装事業につきましては、ニチレキ工法の提案および受注活動への注力に加え、原価管理の徹底に取組んだ結果、売上高は8,971百万円(前年同期比6.5%増)となり、営業損失は340百万円(前年同期は528百万円の営業損失)となりました。その他事業につきましては、不動産賃貸収入などにより売上高は143百万円(前年同期比5.2%減)となり、営業利益は99百万円(前年同期比3.6%減)となりました。

今後の国内経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直しなど、景気の自律的な回復が期待される一方、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念など、今後も不透明な状況が続くものと思われます。

当社グループを取り巻く環境は、市場の急激な縮小が予想されるほか、原油価格の動向や石油元売り各社の減産体制等の影響による原材料価格のさらなる上昇が懸念され、さらに厳しい経営環境となることが予想されます。

このような状況の下、当社グループはグループ総合力の強化を図り、地域ニーズに即した製品・工法・サービスの提供などを推進して業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

代表取締役社長 山内幸夫

■ 連結財務ハイライト

		第67期 上半期	第66期 上半期
売上高	(百万円)	16,765	15,675
営業利益	(百万円)	△ 203	212
経常利益	(百万円)	△ 102	330
四半期純利益	(百万円)	△ 73	312

		第67期 上半期末	第66期末
総資産	(百万円)	42,244	50,040
純資産	(百万円)	28,239	29,183

第11回国際アスファルト舗装会議
「ISAP2010名古屋会議」参加報告

アジアで初めてのISAPが日本で開催

ISAP2010名古屋会議は、国際アスファルト舗装協会と日本道路協会の共催で平成22年8月1日から6日間にわたって、名古屋国際会議場で開催されました。当会議は、これまで欧米で開催されてきましたが、今回初めてアジアで、それも日本で行われました。第11回会議は、メインテーマが「環境と安全」であり、基調講演をはじめ289編の論文報告がありました。会議参加者数は637名(招待者を含めると約800名)であり、6地域44カ国におよんでいます。ニチレキも改質アスファルトに関する論文をはじめ、3件の発表を行いました。

論文発表

ISAP道のテクノロジー展

論文発表会場に隣接したスペースでは、15ヶ国36団体が各社の技術をブースにて出展しました。ニチレキは、排水性舗装、維持材料(レスキューパッチ、ロメンパッチ、クラックシールNX)、路上路盤再生工法、防水材料、路面調査関係について、パネルとサンプルの展示およびビデオ紹介を行いました。パネルは英語と中国語の併記、ビデオは英語での放映とし、約200名の各国技術者の方々にニチレキの技術を紹介することができました。

ISAPブース

2010建設テクノフェア

国土交通省の技術事務所が毎年実施している建設テクノフェアも同国際会議場内で同時開催され、135団体のブースが立ち並びました。ここには、ニチレキ中部支店が環境舗装に関する材料・工法のパネルとサンプルを展示し、会議参加者のみでなく一般の方々にも見学していただきました。

テクノフェアブース

中国上海市に子会社を設立し、営業活動を開始

子会社設立の目的

既に経済発展している中国沿岸部から、政府による大規模な経済投資が計画・実施されている内陸部をターゲットにした製商品の販売とニチレキブランドの構築を目的として、中国最大の経済圏である上海市に子会社を設立しました。

■子会社の概要

1. 会　社　名　日瀝(上海)商貿有限公司
(中文 日沥(上海)商贸有限公司)
2. 事 業 内 容　舗装材料、防水材料、路面補修材料等の販売、道路関連資材の輸出入および技術コンサルティング
3. 資　本　金　50,000千円
4. 出 資 比 率　当社100%
5. 営業開始日　平成22年10月1日

日瀝(上海)商貿有限公司が入るオフィスビル

羽田新滑走路(D滑走路)に ニチレキの材料・工法が採用

羽田空港のD滑走路は、全長3,100m強の滑走路島であり、このうち約2,000mは埋立、残り1,100mは多摩川の流れを妨げないための桟橋構造になっています。この桟橋部に防水層として「ニコプライマー+セロシールSS-B(H)+シノファルトM(H)のSMA合材」が採用され、約40万m²施工されました。

また、着陸帯のアスファルト舗装劣化防止層として「ポートトリート」を開発。約15万5千m²の施工実績を残すことができました。

このほか、ロメンパッチやセロシールSSテープなど、おなじみのニチレキ製品も使用されております。

写真提供:
羽田再拡張D滑走路JV

ポートトリート施工状況

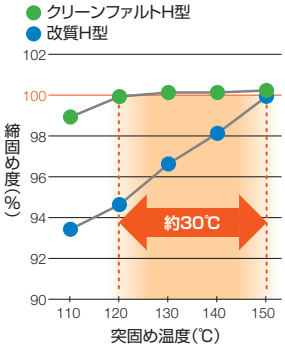
低炭素舗装用改質アスファルト

クリーンファルトⅡ型／クリーンファルトH型

クリーンファルトⅡ型(密粒度混合物用)およびクリーンファルトH型(ポーラスアスファルト混合物用)は、混合物の製造温度を従来よりも約30℃低減することができるプレミックスタイプの改質アスファルトです。

以下の特長を有しています。

1. 混合物製造時に発生するCO_2を削減できます。
2. 混合物の温度が従来よりも低いため、作業員への負荷を軽減します。
3. 通常の機械編成で施工できます。
4. 交通開放までの時間が短縮できます。
5. 従来の混合物と同等の温度で出荷することにより施工可能温度が広がるため、寒冷期にも施工がしやすくなります。



国土交通省をはじめ、低炭素舗装は注目を集めており、当社も積極的に取組んでおります。

溶剤型エラストマー系速乾接着材

カチコートX

カチコートXは、低温時における乾燥時間の短縮と接着強度の向上を目的に開発した速乾性プライマーです。冬季の夜間工事においても10～20分で乾燥するため、季節を問わず補修工事への適用が可能となりました。カチコートXは、グースアスファルト舗装や橋梁床版に施工される防水層のプライマーとして適用できます。また、クラック抑制シートのプライマーとしても適用が可能であり、舗装工事全般に使えることから幅広い活用が期待されております。

環境負荷軽減に寄与する ニチレキの材料および工法

今回は、製品・工法紹介にも登場した「低炭素アスファルト舗装（中温化アスファルト）」についてご説明します。

通常、わだち掘れ対策を目的とした重交通路線の舗装や、水はねが生じないポーラスアスファルト舗装には改質アスファルトが用いられており、アスファルトプラントで170～180℃の混合物が製造されます。

「低炭素アスファルト舗装」とは、従来の機能を損なうことなく混合物製造温度を低減するものであり、製造時の燃料消費を削減することでCO_2の排出量を低減します。

ニチレキの「低炭素アスファルト舗装」技術の一つである中温化改質アスファルト「クリーンファルトシリーズ」には、ポリマー改質アスファルトⅡ型、H型があり、従来の混合物と比較して、製造温度を約30℃低減することができます。

通常の混合物
（製造温度180℃）

クリーンファルト
（製造温度150℃）

CO_2の削減量

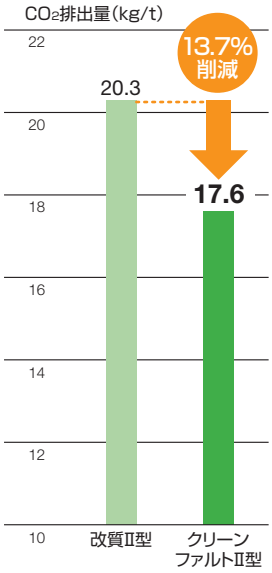
製造温度を30℃低減することは、右図に示すようにCO_2の排出量を約14%削減することに繋がります。また、右の写真に示すように、混合物の製造時には煙の発生が抑えられ、周辺の環境にも優しいといえます。

CO_2の削減効果

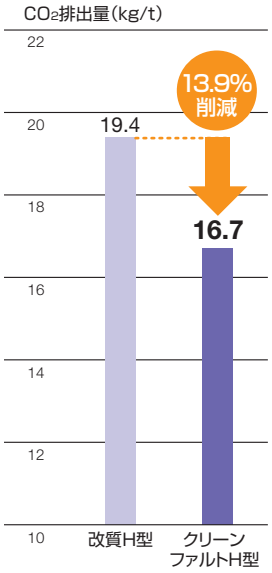
仮に全てのポリマー改質アスファルトが中温化改質アスファルトに代わったと想定した場合、年間16,800tのCO_2が削減されることになります。（平成20年データ）

この削減量は、品川区と同じ面積の森林が1年間に吸収するCO_2量に匹敵します。

改質Ⅱ型のCO_2排出量



改質H型のCO_2排出量



以上のように、ニチレキは低炭素社会の実現に向けて研究開発を進め、環境に優しい製品や工法の開発に邁進しております。

会社概要・株式情報（平成22年9月30日現在）

Corporate Data & Stock Information

会社の概況

商号	ニチレキ株式会社
本社所在地	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
設立	昭和24年9月
資本金	29億1千9百万円
従業員数	703名（連結）、352名（単体）

主な事業内容

- アスファルト応用加工製品の製造・販売、建築・土木用資材の製造加工・販売
- 道路舗装工事・防水工事・上下水道工事ならびにその他の土木工事の請負およびこれらに関する調査・設計・監理
- 測量・地質調査
- コンピュータ情報サービス・ソフトウェアおよび情報処理機器の開発・販売
- 屋内外の各種表示および広告の企画・設計・施工ならびにこれらに使用する印刷物の製造および販売

取締役・監査役一覧

代表取締役社長	山内幸夫
代表取締役	工藤俊二
取締役	高橋保守
取締役	淺田弘
取締役	井上正
取締役	住谷義治
常勤監査役	坂巻宣明
監査役※	滝久男
監査役※	小林修
監査役	雫川博光

※印は社外監査役であります。

執行役員一覧

執行役員社長※	山内幸夫
専務執行役員※	工藤俊二
常務執行役員※	高橋保守
常務執行役員※	淺田弘
上席執行役員※	井上正
上席執行役員※	住谷義治
上席執行役員	穴原良三
上席執行役員	工藤準夫
上席執行役員	佐藤勲
上席執行役員	後藤正司
執行役員	小幡学
執行役員	川口裕司
執行役員	坂井勇
執行役員	江里勝美

※印は取締役兼務者であります。

事業所

本　社	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
技術研究所	栃木県下野市柴272番地
支　店	全国9支店（北海道・東北・関東・東京・中部・関西・中国・四国・九州）
営業所	全国45営業所
出張所	全国11出張所
工　場	全国21工場

主な子会社の概要

会社名	資本金（単位：百万円）	主な事業内容
北海道ニチレキ工事株式会社	40	道路舗装工事等の請負
東北ニチレキ工事株式会社	65	道路舗装工事等の請負
日瀝道路株式会社	150	道路舗装工事等の請負
日レキ特殊工事株式会社	30	道路舗装工事等の請負
中部ニチレキ工事株式会社	80	道路舗装工事等の請負
近畿ニチレキ工事株式会社	50	道路舗装工事等の請負
中国ニチレキ工事株式会社	50	道路舗装工事等の請負
四国ニチレキ工事株式会社	17	道路舗装工事等の請負
九州ニチレキ工事株式会社	23	道路舗装工事等の請負
朝日工業株式会社	50	道路舗装工事等の請負

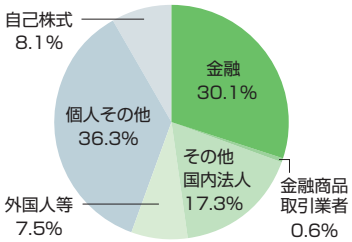
株式の状況

●発行済株式総数及び株主数

発行可能株式総数	90,000,000株
発行済株式の総数※	29,113,840株
株主数	3,596名

※自己株式2,572,115株を除く

所有者別株式分布状況



金融	952万株
金融商品取引業者	19万株
その他国内法人	549万株
外国人等	239万株
個人その他	1,150万株
自己株式	257万株

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から3月31日まで
単元株式数	1,000株
定時株主総会	毎年6月
期末配当基準日	毎年3月31日
公告方法	電子公告
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 （株式事務に関するお問い合わせ先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社証券代行部
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本支店

（お知らせ）
中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページ

●フリーダイヤル　0120-78-2031
0120-87-2031（24時間受付：自動音声案内）

●ホームページ　http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

株主メモ（お知らせ）

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

ニチレキ株式会社

http://www.nichireki.co.jp

〒102-8222 東京都千代田区九段北4-3-29
TEL：03-3265-1511　FAX：03-3265-1510